

<NQN>☆中国の17年GDP、7年ぶり成長加速 不動産投資と輸出好調・指標一覧

【NQN香港＝橋本典子】中国国家统计局が18日発表した2017年の実質国内総生産（GDP）は前年比6.9%増で、前年（6.7%）を上回った。伸びが加速するのは2010年以来7年ぶり。成長率は日経QUICKニュース社と日本経済新聞が集計した市場予想の平均値（6.8%増）も上回った。不動産投資の好調に加え、輸出が伸び、消費も堅調だった。17年10月の共産党大会を前に政府主導で鉄道敷設などをてこ入れしたのも大きかった。

17年は住宅や都市開発など不動産開発投資の伸びが通年で7.0%増と、16年の6.9%から伸びが拡大した。小売売上高が10.2%増加するなど個人消費も拡大。世界景気の回復を背景に年間の輸出は前年比7.9%増と、16年の7.7%減からプラスに転じた。16年は低下していた卸売物価指数（PPI）もプラスになった。

17年通年の成長率が市場予想を上回ったのは、10～12月期が想定以上に堅調だったことが大きい。同期の実質GDPは前年同期比6.8%増と、市場予想（6.7%増）を上回った。工業生産高の落ち着きなど内需の堅調に加え、輸出が11～12月に2カ月連続で2ケタ増になるなど外需が好調だった。市場では「17年の中国経済は安定していた」（大唐金融集団シニア・バイスプレジデントのローザ・リー氏）との声があった。

もっとも、18年は成長が再び減速するとの見方が多い。日経QUICKニュース社と日本経済新聞が17年12月時点で集計したGDPの市場予想平均は6.5%。金融機関や個人の負債比率がなお高水準にあるなか、「習近平（シー・ジンピン）政権が債務抑制方針を続けるため成長が鈍化する」（独コメルツ銀行）との予測は多い。すでに17年も共産党大会後には環境や金融分野への規制強化が目立っており、設備投資などの固定資産投資は通年で7.2%増と、1999年（6.3%）以来もっとも低い水準にとどまった。世界景気の先行きと中国当局の規制のさじ加減が成長の度合いを左右することになりそうだ。

中国の主な経済統計の内容は以下の通り。

◎2017年と同年12月の経済統計

<四半期経済指標>

・GDP成長率	通年（予想）	10～12月期（予想）	7～9月期	4～6月期
	6.9%（6.8%）	6.8%（6.7%）	6.8%	6.9%

<月次経済指標>

	通年	12月（予想）	11月	10月
・工業生産高	6.6%	6.2%（6.0%）	6.1%	6.2%

・小売売上高	10.2%	9.4% (10.1%)	10.2%	10.0%
・固定資産投資		7.2% (7.2%)	7.2%	7.3%
・不動産開発投資		7.0% (—)	7.5%	7.8%
・融資増加額	13兆5300億元	5844億元 (9650億元)	1兆1200億元	6632億元
・現預金総額		8.2% (9.2%)	9.1%	8.8%
・輸出額	7.9%	10.9% (9.5%)	12.3%	6.9%
・輸入額	15.9%	4.5% (15.0%)	17.7%	17.2%
・貿易黒字額	4225億ドル	546億ドル (385億ドル)	402億ドル	382億ドル
・消費者物価指数	1.6%	1.8% (1.9%)	1.7%	1.9%
・卸売物価指数	6.3%	4.9% (4.8%)	5.8%	6.9%
・外貨準備高		3兆1399億ドル (—)	3兆1192億ドル	3兆1092億ドル
・製造業PMI		51.6 (51.6)	51.8	51.6
・非製造業PMI		55.0 (—)	54.8	54.3

(注) %の数字は前年同月や前年同期と比べた増加・上昇率。PMIは中国物流購入連合会(CFLP)と国家統計局による共同集計の数字。市場予想は実質GDP成長率とCPIは日経QUICKニュース社と日本経済新聞が集計した数字、他はダウ・ジョーンズ通信の中央値など。都市部固定資産投資、不動産開発投資は1月からの累計の前年同期との比較。